

令和4年度 SDG s チャレンジサポートプロジェクト

第2学年 国内フィールドワーク

(概 要)

第2学年探究学習委員による国内フィールドワークを実施しました。東日本大震災・原子力災害伝承館における研修や、仙台市内の事業所訪問を実施し、探究活動に必要な取材等を行うことができました。また、他県の高校生と探究学習の交流会を実施しました。ここ数年コロナ禍において制限されていた校外での探究活動を再開することができ、生徒たちにとっては、大変有意義な3日間となりました。年度末の探究学習発表会に向け、研究内容の更なる深化を期待します。

記

1 目 的

- (1) 事業所訪問をととして、研究に関わる資料や情報の収集を行うとともに、コミュニケーション能力を伸ばす。
- (2) 他校生との交流をととして、探究学習における研究の方向性を見直す契機とする。

2 期 日

令和4年8月17日(水)～19日(金) 2泊3日

3 事業所

東日本大震災・原子力災害伝承館、宮城県内の各事業所、宮城県仙台二華高等学校

4 対 象 第2学年探究学習委員 31 名

5 行 程

8月17日(水)	7:20 10:30 10:30 13:00 18:00	学校発 東日本大震災・原子力災害伝承館着 被災地フィールドワーク 伝承館展示見学・講話・ワークショップ ホテル着
8月18日(木)	9:00 17:00	ホテル発 ※各班ごとに事業所を訪問 ホテル帰着
8月19日(金)	8:40 9:30 10:00 14:00 18:30	ホテル発 宮城県仙台二華高等学校着 探究学習生徒交流会 ホテル発 学校着

6 内 容

(第1日目) 8月17日(水)

福島県双葉町にある[東日本大震災・原子力災害伝承館](#)にて、地震、津波および放射線による複合災害、被災地復興に関する研修を実施した。同災害が発生した2011年当時、生徒たちはまだ未就学児であった者が多く、地震の記憶は残っているものの、あの未曾有の災害がどのようなものであったのか詳しく知る生徒はいない。今回の研修では、伝承館の展示見学と合わせて、ガイド付きバスツアーによるフィールドワークによって被災地を直に見学することで、津波による災害をより現実感を持って理解することができた。特に[浪江町太平山](#)を訪れ、機転を利かした避難行動や、僅かな高低差が多くの人々の生死を分けたエピソードを伺った際には、荒涼と広がる被災地を見下ろしながら、生徒たちはかなり強烈な印象を受けていたようであった。午後のプログラムでは、災害ボランティアの方の講話やワークショップを行い、災害対策の問題点を生徒同士で共有するとともに、これからの被災地の復興策や我が国のエネルギー問題の解決に至るまで、様々な意見を交わすことができた。

(第2日目) 8月18日(木)

仙台FWの第2日目は、各班それぞれの探究テーマに応じた事業所訪問を実施した。実施直前にお盆休みを挟んだこともあり、アポイントメントを取るのに苦労するだろうと教員側は心配したが、各班とも1～2箇所の訪問先を確保することができた。多少の失敗もあったようだが、自らの責任でアポイントメントの電話をかけ、直に専門家や現地の方々の声を聞くことができたこの経験は、生徒たちを大きく成長させたことだろう。見聞きしてきた貴重な情報やデータは、今後の探究学習の深化につながるものとなった。

通常業務に忙しい中、本校生のために詳しい資料を準備してくださったり、時間を割いて頂いた各事業所の皆様方には、本紙面上にて改めてお礼を申し上げたい。

今回生徒たちがお世話になった事業所は以下のとおりである。(五十音順)

株式会社かね久、川崎町役場、体験型農家レストラン蔵楽、栗原市役所
七十七銀行金融資料館、公益財団法人仙台市産業振興事業団Morijob
仙台市役所多文化共生センター、同環境課
東北大学環境科学研究所、同大学院農学研究科作物学研究室
宮城県庁環境課環境産業振興班、宮城県商店街復興組合連合会
宮城県仙台第三高等学校、宮城県宮城第一高等学校

(第3日目) 8月19日(金)

最終日は、[宮城県仙台二華高等学校](#)GS(グローバル・スタディ)課題コース選択の2年生たちと、現在取り組んでいる探究課題について、生徒交流を行った。生徒主導で始まった交流会は、代表生徒のあいさつ後、お互いの学校紹介を行い、時折笑いを交えた和やかな雰囲気であった。

二華高校のGS課題では「水」をテーマに、主にカンボジアの人々の生活を改善するアイデアを探究している。同校の取り組みは本校とは大きく異なり、生徒たちは各テーマに別れたゼミに所属しながら、先輩から後輩へと連綿と研究を深めていくのが特徴である。単年度で研究成果をまとめなければならない本校とは異なり、実験データを積み重ねて資料の精度を高めた

り、先行研究をベースとしながらより良く改善していく二華高校の発表を聴いて、本校生たちは大変刺激を受けたようだった。

本校生も、これまでの研究経過に加えて、昨日実施した仙台フィールドワークでの最新の成果を加味した内容でプレゼンを行ったが、想定した発表時間を大幅に超過してしまったことは反省点である。9月には、在校生向けの仙台フィールドワークの成果発表を行う。伝えたい内容を簡潔に、かつ的確に伝えるプレゼンテーション力も磨く必要があるだろう。

短い時間であったが、お互いに新たな視点から探究学習の成果を共有できた交流会は、両校の生徒にとって大変有意義なものとなった。今回実現した交流を次年度以降も継続できることを希望する。

7 参加した生徒の感想（事後アンケートより一部抜粋）

（1）東日本大震災や原子力災害にかかわる震災遺構を見学して考えたことや、防災・減災対策に対する問題点などの意見。

○今回のような震災の展示であったり震災遺構などを実際に見学するのは初めてであり、映像などの資料を見て大きく衝撃を受けたと同時に、町内で行われている震災からの復興への多くの人の努力、苦勞を目の当たりにして自分が今回の体験をどのように生活に生かしていけばいいのか、今回だけで終わりにしないためにはどうすればいいのかを周りの人との意見交換も踏まえて考えることができたことは大変良い経験になった。

○イキイキした町並みも「津波」というただの水が通過するだけで、一瞬で無くなってしまうということに恐怖を感じた。ハザードマップなどで避難場所や避難経路を確認することももちろん大事だが、いざ自分が災害の真っ只中にいるときに臨機応変に対応できるような、心構えを持つことも大事だと思った。また放射線のせいで人が住めなくなってしまった区域に実際に行ってみたことによって、そこに住んでいた人の苦勞を知ることができた。

○ニュースなどで目にしているため原発についてある程度の知識はあったが、今思えばほとんど何も知らなかったと思う。これまで「花は咲く」を何度も聞いたり、演奏したり、歌ったりしてきたが、今日改めて聞いてみたところ歌詞やメロディーがとても心に響いた。

○今まで私は津波を他人事として認識していたが、伝承館で見た津波の映像や東日本大震災の時の津波の高さに合わせて付けられたマークを見て、津波の恐ろしさを物凄く実感した。いずれ首都直下型地震が発生する可能性も非常に高いので、防災・減災は日本中の人と一緒に頑張って取り組むべき課題であり、その開始点は防災教育にあると思った。

○個人的に強く印象に残ったのが風評被害のことで、どうしても人々の記憶にはネガティブなことのほうが残りやすく、被災地の商品が避けられてしまう。まずは若い人が行動を起こすことが必要なんじゃないかと考えた。

○深く触れたことがなかったので東日本大震災や原子力災害の悲惨さを強く思い知った。現実の世界で、日本にこんな場所が本当にあるんだと突きつけられた。実際に双葉町を訪れて放射能汚染の現況を理解したが、家に帰って話すと親が放射能が心配だからあまり行きたくないと言った時は衝撃を受けた。偏見をなくすことがまだまだ必要だと感じた。

○雑草が生い茂っていた光景や荒れ果てた民家などを見て、今まで他人事だと思っていた震災についての認識が変わり、震災による被害を最小限にとどめるためには、自分達から能動的に考えていかないといけないと思った。

○震災のことで知らない事が沢山あった。原発の事について知り、現地をまわった事で、被害の大きさや被害者の方々の声を聞けた気がした。これから自分たちにできること、考えられる事はないか、これを学びとして、生かしていきたい。

（２）仙台におけるフィールドワークを実施した結果や感想。

○私の班が行ったフィールドワークでは、実際に自分達が知りたいことであったりそれ以上の情報提供もしてくださった部分もあり、様々な発見があり、自分の興味を深めることができた。今回のフィールドワークで得た情報や新しい視点は、これからの探究活動に役立て、さらに班の学習内容をより深化できるようにしていきたい。

○自分の足で実際に企業の方に行くことができてとてもためになった。七十七銀行を訪れて、貨幣の歴史や仕組み、歴史や為替について知ることができた。今後の探究活動で世界の経済に目を向ける際、たいへん役に立つのではないかと思った。

○仙台フィールドワークでは、仙台市に在住している外国人に対してどのような対応を取っているかや、どのような活動をしているのかを知って良かった。また、地域によって活動の内容に違いがあることも分かって良かった。

○川崎町役場で廃校活用が進む地域の貴重なお話を聞くことができた。実際に廃校を利用したお蕎麦屋さんに行き、活用されている教室、放置されている教室を見学して備品の様子を調べることができた。茨城県は廃校があまり活用されていないので、とても参考になった。

○宮城県庁環境政策課では職員の方々から有意義な話を聞いたが、事前調に宮城県についてばかり調べていたせいか、自分達が地元の環境政策やゴミ制度について無知だということに気がついた。もっと予備知識があれば話を聞きながら宮城と茨城との比較がよりできたかなと後悔した。

○東北大の吉岡先生の話聞いて、私たちが生分解性プラスチックの性質を誤認していたことが分かったので、最終目標を変更することにした。

○宮城県内での商店街振興の成功例だけでなく全国の土浦市と似た環境の例をたくさん出してください、いただいたアンケート結果は直接今後の活動に生かせると思った。仙台市内のアーケードは規模の違いから参考になるべきところは少なく感じたが、商店街を取り持つ組合の知識なども学べたため土浦市内でもお話を聞きに行きたい。

○統計やメディアではわからない当事者自身の意見や苦悩、対策などを知ることができ、今まで持つことのなかった自分達の考える問題に対する新しい視点を持つことができた。

○宮城県庁では環境課の方々から宮城県の環境に関する政策や企業の取組などを分かりやすく説明していただいた。資料もたくさん用意してくださったので、これからの活動に役立つフィールドワークだった。

○事業所の方が優しく接して下さり、資料やお話を沢山聞く事ができた。また、自分たちの探究内容を言ったらそれに対するアドバイスを下さったり、一緒に考えて下さってとても楽しく、充実した時間になった。実際に商店街を回ってみるのも楽しかった。

（３）仙台二華高校の生徒と探究学習の交流を行って考えたこと。

○仙台二華高校の発表は、先輩から受け継がれてきたものがあり、本校と規模が異なっていてとても刺激を受けた。様々な視点から、物事を考えられていたため、分かりやすく十分な根拠がある発表だった。

○私はデータを集めることに必死で自分自身で実験や調査を行えていなかったが、二華高校の人たちはその事を行っており、説得力を感じられたので、そうすることが大事だと思った。

○二華高校では実験をメインに研究をしていて説得力があった。私たちは現地に行ってみたり、お話を聞いたりするのが主な調査方法なので数値的なデータも取り入れたい。

○二華高生は課題学習を代々受け継いで行っていたので驚いた。先輩たちが過去に収集したデータをもとにやるので効率的だし、アイデアを提案、で留まるのではなく、本当に問題の解決策を実現させて東南アジアをサポートしたい、という意志が伝わってきて圧倒された。

○我々は内容がまとまっておらず長々と喋ってしまう班が多かったので事前準備が大切なこと、取捨選択をきちんとすることが足りていないと感じた。テーマは違っても質問やアドバイスなどからも自分達に活かせる部分が多くありとても参考になった。

○海外フィールドワークでも英語でのプレゼンだけでなく二華高校のように海外でしかできない目的を持ったものにする必要があると思った。

○仙台二華高校の探究活動は私たちの研究よりも実用的な視点でおこなわれていた印象だった。また、発表をするときに自分が話したいことを全部話すのではなく、その中で最も聞き手に伝えたいことを厳選することの大切さを実感した。

○お互いの研究内容は、違うジャンルというか、システムが違う感じがしたが、それぞれで参考になる意見が沢山もらえた。他の人の研究発表もとても面白かった。それと同時に、改善点も沢山見えて来た。

（４）仙台FWに参加して、学んだことや考えたこと、今後の探究学習にどのように生かしていくか、次年度以降の改善点など。

○探究活動には、本当に終わりが無い、ということが改めてよく分かった。

○教授から頂いたアドバイスや、仙台二華高校との交流で勉強になったことを、自分たちの探究に取り入れて、より良いものを完成させていきたい。

○自分たちで訪問する企業や場所にアポをとる、というのもとてもいい経験になった。普段は頼りがちになってしまう事だが、自分たちでやることによって、責任を感じられた。

○今回の仙台FWに参加して得られたことの中でも、企業訪問で得られたこと、物の新たな見方や考え方、実際に見学することで分かった現状などはこれからの探究の基盤となるような重要な内容であり、大いにこれからの班の活動の方針や活動に活かしていきたい。

○事業所を決めている時期、私は諸事情で少し忙しく、探究に集中することができなかった。その結果、成果が不十分でかなり勿体無いことをしたと思っている。例えどんなに忙しくとも、自分がやると言ったことには責任を持ってやるという必要性を身をもって感じた。

○訪問した事業所から新鮮なご意見をいただいたり、二華高校での発表では、自分達がやっている研究を客観的に捉え直すことができた。

○たくさんのデータを集めてそこから有益な情報を使用していこうと思った。また、今回銀行の資料館を訪れて、お金の仕組みの複雑さを知った。これから世界経済に目を向けた際、そういった複雑さに対応できるように、経済についてもっと詳しく知る必要がある。

○旧前川小学校の音楽室にたくさんの楽器が放置されていた。まだまだ使えそうだが近隣の学校に需要がなかったという。学校の楽器は高くてもある程度品質も良いため放置するのはもったいない。このまま何年も放置すると使えるものも使えなくなってしまう。何か良い方法を見つけてこれらの楽器を救いたいと思った。

○仙台FW後に調べて思ったことだが、宮城県は環境問題についての取り組みに茨城県よりかなり力が入っている。茨城県と宮城県を比べてみると、茨城県の環境対策の課題も見えてきた。例えば、茨城県はもっと市町村や県で行っている取り組みを発信したり、ウェブサイトを充実させると良い。また、プラスチックが絡むテーマを設定しているからには、プラスチックそのもののやりサイクルシステム、そして地元の現状について理解することが不可欠だと実感した。

○仙台FWに行って、探究を深められることのワクワク感や交流することによる新たな刺激などを色々ところで得ることができた。一方で、4校合同交流会でも感じたが、背景知識や下調べの不十分さも若干否めず、もっと土台づくりもしっかりしたいと感じている。これからは、今回の手ごたえを生かし、茨城県やその市町村でどう応用していくのか、また土浦市、つくば市などの近隣市町村の法整備や行政にも注目したい。

○先生方は全体的に自分たちの自主性を信じて任せてくださったので、FWも観光もたくさん充実させることができた。心残りなのは交流会でのプレゼンである。来年度は時間設定を厳守させることやプレゼンの作り込みをする必要がある。

○第一に、事前準備とシュミレーションがとても大切であると学んだ。アポ取りはできるだけ早く、そして臨機応変に対応できるようにし、連絡は待つのではなく自分達から積極的にすること。スピーチではそれぞれの話す要点を先にまとめて共有し、どのくらい話すかや流れをきちんと把握することが必要であること。今後はこれらを意識して進めたい。

○仙台FW、二華高校さんとの交流ともに良い刺激となったのでこれからも続けていくのが良いと思う。

○福島震災伝承館探訪では、建物とか何にもなかったり、唯一残ってるような建物の時計があの日のあの時刻のまま残ってたりと、色々考える機会になった。仙台では時間が十分にあり、とても充実した調査を行えた。総括として、今後の探究学習では深い思考と、簡潔にスライドや発表を行う必要があると痛感した。

○2泊3日で福島と仙台を回り忙しかったが充実したFWになった。福島では東日本大震災の研修を通して災害に備える心構えを学べたが、これは私がテーマにしている地域活性化の防災面で活用できると思った。また事業者訪問では資料、質疑応答ともにとても有意義なものになり今後の探究の方向性や県内での訪問先の参考にしていきたい。なかなか思うように計画が進んでいないため着々と進めていく必要があると感じた。二華高校との交流では二華高校だけでなく一高生の進捗状況も分かったので置いていかれないよう頑張っていきたい。

○実際に事業所に訪問した際は、自分達がデータを都合よく解釈してしまっていたことを実感した。しかし聞いた話は、仮に私たちが話を聞いた人がリーダー的な立場であったとしても一個人の見解に過ぎないので、これから機会があれば更に他の人にも話を聞くべきであると思う。改善点としては時間の使い方が良くなかったなので、効率よく時間を使えるように意識したい。

○もっと事前に集まったりして、準備をしていくことが必要かもしれない。実施時期がちょっと微妙な感じがした。

8 国内フィールドワークの様子 (第1日目)

		
東日本大震災・原子力災害伝承館	被災地フィールドワーク	伝承館展示見学

		
講話の様子	ワークショップの様子	伝承館前で記念撮影

(第2日目)

		
企業で取材をする生徒	東北大学（宮城野キャンパス）	廃校の利用状況取材する

(第3日目)

		
仙台二華高校にて	二華高生から歓迎の挨拶	それぞれの学校を紹介
		
一高生のプレゼンテーション	二華高生から鋭い質問が！	探究委員長まとめの挨拶